

第20号

MITAKA COLLABORATION CENTER NEWSLETTER

平成18年

5月

三鷹市市民協働センター

ニュースレター

三鷹市市民協働センターは市民活動を応援し、民学産公の協働によるまちづくりを推進する施設です。

主催：三鷹市

市民活動のための

Coaching seminar will hold.

コーチング塾入門「人は見た目が肝心」

明るく



ゲームもやるよ!

楽しく

自分の中の、宝を探そう。

無料

5月13日(土) 午後2時～午後4時 講師：立石 功 (ジョイフル・コーチング・クラブ代表)

顔つき、姿勢、足の組み方、顔の表情、眉間のしわなど、ちょっとした仕草や表情が与える印象。気付かないうちに誤解されていたり、「とっつきにくい人」と思われていませんか？「見た目」は気持ちの表れ、その時のこころの在り方が反映されたものです。

“気持ち”に気付けば、“見た目”が変わる。さあ、私たちと一緒に、楽しく、ゲームをしながら自分の中の宝物を探してみませんか？
コーチング塾入門編の始まりです。

保育付き(無料)

【対象】 1歳から未就学児

【人員】 6人(先着順)

【申し込み】 5月1日(月)までに
お電話・FAXにてお申し込み下さい。

【保育室】 ミーティングルーム(1階)



場所：三鷹市市民協働センター

対象者：市民活動実践者及び希望者
参加者人数：30人(先着順)

お申込：三鷹市市民協働センターへ
メール・ファックス・電話にて

もじ

〈1ページ〉コーチング塾入門「人は見た目が肝心」。〈2ページ〉まちづくりディスカッション2006あらまし。〈3ページ〉『障害者地域自立生活支援センターぽっぷ』・「PRRのコツ」を開催。〈4ページ〉世界一大きな布絵本展開催・さらに機器が充実。

みたかまちづくりディスカッション2006

～新たな市民参加手法の検証～

あらし

目的

～新たな市民参加手法の検証～

市民参加・協働の形は、行政が枠組みを決めて市民から意見を聞き取る形式から、市民と行政がともに進める協働型へ移り変わってきている。

これまでの市民参加の歴史を踏まえた上で、参加のきっかけのなかった人にも働きかけをし、新しい市民参加の手法の検証を行う。



三鷹青年会議所理事長 埴村氏 (左)と清原市長(右)

概要

【期間】8月26日(土)・27日(日)の2日間

【対象】満18歳以上の三鷹市民

【対象人数】45人

【テーマ】『子どもの安全安心』

【場所】三鷹市市民協働センター

【主催】三鷹青年会議所、三鷹市

みたかまちづくりディスカッション2006とは?

～三鷹青年会議所と三鷹市の協働開催～

無作為抽出で選ばれた市民が集まり、具体的なまちづくりのテーマについて話し合う市民参加の新しい手法を実験的にいき、検証する取り組み。

ドイツのプランクスツェレ(計画のための細胞という意)という手法を使う。ドイツでは中心市街地の活性化や工場跡地の再開発計画など300以上の実施例がある。

三鷹青年会議所と三鷹市が協働で開催。行政も参加しての実施は日本で初となる。

*無作為抽出法は、一部を調査することで全体の正確な傾向がわかる社会調査手法の一つ。

開催までの流れ

実行委員会の立ち上げ(4月)



議論のテーマの詳細を決定



広報・PR(広報みたか、ホームページ等)



住民基本台帳から無作為抽出



抽出した市民への参加要請書を送付



みたかまちづくりディスカッション2006開催
8月26日(土)・27日(日)



検証及び報告書の提出



みたかまちづくりディスカッション2006実行委員の皆さん。

お問い合わせ

三鷹市市民協働センター内(1階)

みたかまちづくりディスカッション2006事務局

★高橋事務局長が質問や問い合わせにお答えします★

窓口開設日:5月11日(木)・18日(木)・25日(木)

各日とも午後2時～5時



★ 障がい者相互の支援を実現 ★
障害者地域自立生活支援センター ぽっぷ



2003年10月にハローワーク三鷹の横にオープンした、「障害者地域自立生活支援センターぽっぷ(以下ぽっぷ)」は、スタッフの中心となっているのが障がい当事者。これまでの知識や経験を活かし、相談や1人暮らしのためのサポート、医療機関の情報提供など、一人一人に合った支援を行っている。
 施設長の宮城さんは、「自立に至るまでたくさんのサポートをしてもらいました。今度は自分がほかの障がいの者

のりたいたい。」と、2001年の8月に『NPO法人障害者生活支援センターインみたか』を立ち上げた。障がい者が相互に助け合う必要性を三鷹市に働きかけ、2003年「ぽっぷ」を受託し、実現した。

宮城さんは「障がい者福祉を、障がい者自身が関わりながらつっていきたい」と、みたか市民プラン21会議にも参加した。

相談

ホームヘルパーの相談、一人暮らしの自立相談、障がい者を診てくれるお医者さんの紹介など、あらゆる相談。

ピア・カウンセリング

障がいをもった人がお互いに話を聞き合い、情報交流や、精神的サポートにより自立生活の手助けをする。

自立生活プログラム

地域で自立生活を行うために必要なノウハウを学んだり、自立生活を楽しむための情報を提供。

余暇活動支援

障がい者・健常者を問わず気ままに語り合える場所を提供。

★当センターでは随時ヘルパーさんを募集中★



障害者地域自立生活支援センターぽっぷ
 〒181-0013三鷹市下連雀4-15-18下連雀複合施設2階
 電話:0422-71-0901

PRのノウハウ

The seminar "How to create the P.R poster and flier" was held.

を開催しました。4月8日(土)、22日(土)合計60人参加。



講師はNPO法人コミュニティデザイン ネット理事長・デザイナーの田中誠司さん。



ポスターやチラシを作製し、直接指導を受けた。「デザイナーの方の仕事の進め方はとても参考になった」、「実践的で分かりやすかった」、「さっそく市民活動のポスターを作ってみます」などの感想があった。

**ポスター・チラシ
 作製のコツ...**

- ① 細部を作りこむ前に全体の構成を決める。
- ② 情報の優先順位を考える。
- ③ 目線の流れを考えて配置する。
- ④ 余白を作って読みやすくする。

**ポスターと
 チラシのちがい**

- ★ ポスターは目に留まり、興味を持たせること。
- ★ チラシは内容を詳しく読めること。

展示
中
Exhi-
bition

世界一大きな布絵本展



子育てヘルパー遊☆きつず俱樂部、ZUGOIなどの市民活動グループが作った世界一の布絵本を展示。
*縦2m70cm、横見開き7m60cm(世界一の大きさ)

←3月26日に行われた完成披露の読み聞かせイベントの様子。ページをめくるごとに風が起こる。自分たちが作った絵本のストーリーに子どもたちも引き込まれていた。

手作り布絵本展 同時開催!

「大沢布の絵本の会」と「てのひらの会」の、手作り絵本を17点展示。本物そっくりに作られたくすり箱、ふわふわ羊の親子、あんぐり口をあけたゴリラなど、どれも布ならではのやさしい手触りの絵本。



5月29日(月)まで開催。



We purchased office machines.

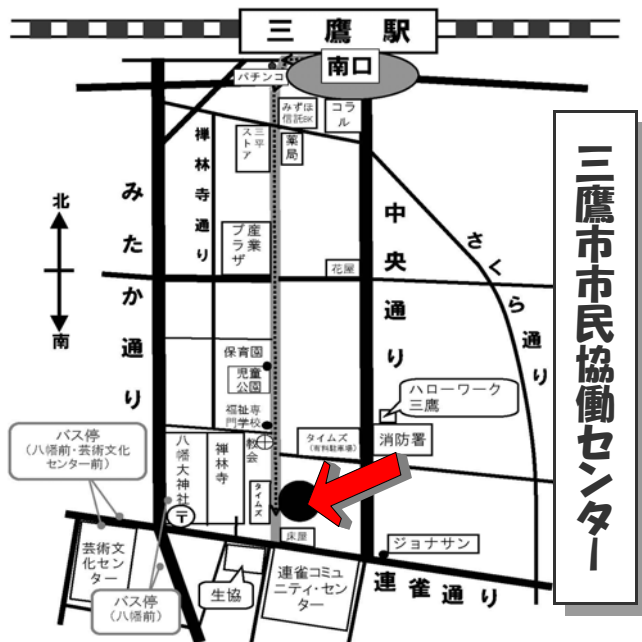
さらに機器が充実!

印刷機と、紙折り機を1台ずつ追加し、各2台になりました。

- * 印刷機は原紙40円です。(紙持込み式)
- * 紙折り機は最大A3サイズまで。2つ折り、4つ折り、片袖折り、内3つ折り、外3つ折り、観音折りなどができます。



★是非、協働センターをご利用下さい★



Editor's note.

編集後記: 世界一の布絵本が完成し、完成イベントが3月26日に行われました。子どもたちがたくさん絵本作りに参加したこともあって、会場は子どもたちでいっぱいでした。最後のページには、「作者」である子どもたちのサインが描かれ、「あれ、私のだ!」と声が上がっていました。その後も展示している絵本を見に来が親子が、「あ、ここママが描いた!」「あつ、サインがあった!」と言って楽しそうに話している姿が見られて嬉しいです。(ま)

発行日:平成18年5月1日

発行:三鷹市市民協働センター(三鷹市生活環境部コミュニティ文化室)

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀4-17-23

TEL 0422-46-0048 FAX 0422-46-0148

Eメール:kyoudou@collabo-mitaka.jp

ホームページ:http://www.collabo-mitaka.jp

開館時間:9:00am-9:30pm

受付時間:9:00am-9:00pm

休館日:火曜日(祝祭日は開館し、直近の平日を休館とします。)